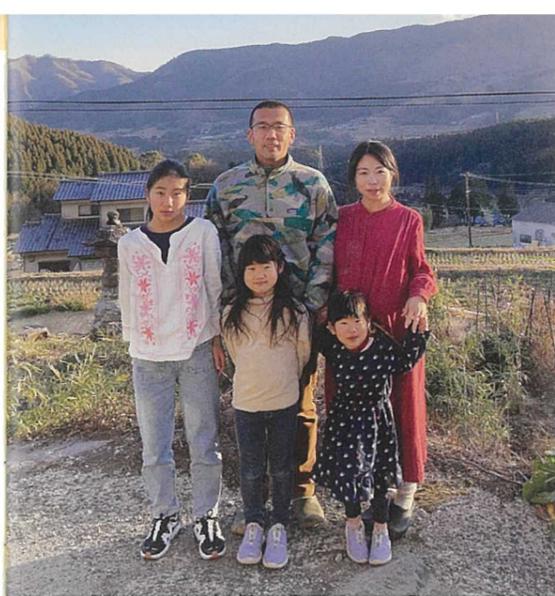


由布市に住む。



一目ぼれの場所に家族で移住

山々や温泉が点在する自然豊かな由布市へ2016年に移住された山内健生さん、彩乃さん、3人の娘さん。健生さんはリモートワークでITシステム開発業務を中心に、彩乃さんは農産物の加工・販売や海外で仕入れた雑貨の販売などを中心に仕事してい



2016年ご家族で農業が盛んな由布市の庄内町へ移住。棚田が広がる地区で、IT事業と自然の素材を活かした手仕事をしています。

Yamauchi's Family

山内 健生さん (44)
・彩乃さん (39)

る。暖かい季節は、畑作業や日曜大工をしたり、寒い季節は温泉に入ったりと、里山暮らしを満喫している。
「旅が好きで、東南アジアなどを旅して素朴な暮らしにふれました。そのような暮らしを参考に田舎暮らしをした」と考えていました。「話す健生さん。「東京近郊や四国、九州など車で様々な土地を訪れ移住先を探しました。移住者フェアに参加した際、由布市の方と出会い、意気投合。由布市を案内してもらい、高台から美しい棚田が見渡せる地区に一目ぼれしました。下見のときから地域の人が親身に行ってくれたこともきっかけとなり、由布市への移住を決めました。」と話す。

は十数年空き家状態だった為、初めて見たときツタが絡まったお化け屋敷のようでした。」と話す山内さんご夫婦。地域の方にも協力してもらい、家の周りを覆っていた荒れた竹林を撤去したり、大量のごみを処分したり、家屋の補修や水道の引き込みをしたりと、生活基礎の整理を経験することで、田舎暮らしに必要な知識とスキルを少しずつ学んだとのこと。その後、荒れ果てた建屋は全て撤去し、事務所を新設して、4年を経てようやく、お子さんも含め家族みんなで安心できる住環境になり、地域の暮らしを満喫している。

地域をたっぷり味わう暮らし

健生さんは勤めていたIT系の会社で経験を積み、独立できる手ごたえを得て移住した。今後の目標として「IT事業の安定化と雇用の創出、将来的にはIT技術で農業のお手伝いが出来れば。」と語る。彩乃さんは、「毎日湧水を使って暮らせることが幸せ。」と話す。移住先には水のきれいな場所を探していたとのこと。畑の野菜を使った季節の手仕事や山にある素材と湧水を活かした草木染めなどを楽し



移住後、お子さんの変化もあつたという。移住前は近所の同世代の友達と遊ぶことが多かったが、移住してきて歩いて友達の家に行けなくなった分、ご家族や姉妹の距離が近づいたよう。「自分たちで遊びを見つけて、年齢関係なくご近所さんの家に行つて遊ぶようになりました。親も気づかないようなことをご近所さんが褒めてくださり、かわいがつてもらっています。地域の人あつてこそ、暮らしていくことができ

暮らして実感 由布市はこんなまち

山内さんから

移住を希望される方へ (アドバイス)

最初に思い描く移住時のイメージとは異なることも、柔軟に受け入れると楽しいです。

由布市のお気に入りの場所は？

夏場は男池、冬場は温泉(湯布院、湯平、庄内)。由布市近郊も観光スポット満載です。



Advice & My Favorite

日出町に住む。



Murohashi's Family

室橋 春樹さん
智美さん夫妻

神奈川県から日出町へ移住した室橋さん夫婦。夫の春樹さんは会社勤めから林業の道へ転身した。

電車の中吊りで見た「職人」に憧れ 林業の道へ

現在、森林組合に勤めている春樹さん。もともとは首都圏を中心に、営業職として会社勤めをしていたそう



が、転勤を重ねる中で自然豊かな場所での暮らしを経験し、山や温泉が身近にある生活に惹かれるようになったんだとか。「通勤途中、電車の中吊り広告で林業に携わる仕事のガイダンスがあることを知り、興味を持ったのがきっかけです。「林業アカデミー」という研修制度が全国にあることを知り、せっかくなら今までの生活圏から遠い所へ行つてみたいと思い、九州地方で探しました」と話す。大分県にも「おおいした林業アカデミー」があり、当時足を運んでいた移住フェアでの大分の印象が良かったこともあり、申し込みを決めた。また、移住相談のために通っていた「ふるさと回帰センター」では、大分県の相談員が各自治体との調整を細かに行ってくれたり、とても心強かつたそう。

都会での生活から、方言が飛び交う大分へ

「おおいした林業アカデミー」の研修先は由布市だったため、通いやすさを考慮して住む地域を決めたそう。都会での生活が長かつた智美さんは車の運転に不安があつたため、自

車やバスで生活ができることや、看護師として働くことも考え、初めは別府市の空き家バンク物件へ移住することに。「移住したばかりの頃は大分の方言がわからないことが多く、理解できるまでに時間がかかりましたね。私は病院での勤務なので地元の方と接する機会が多く、同僚や友人に聞いたりして少しずつわかるようになっていきました」と智美さんは話す。

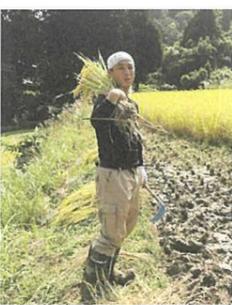
別府湾を望む 日出町での暮らし

現在は別府市の隣の日出町に住まいを移し、新居が完成したばかりという室橋さん夫婦。日当たりのいい家全体に木のぬくもりが感じられ、リビングの中心にはあたたかな火が灯る薪ストーブが置かれていて、「せっかくなら自然に近い場所に越してきたので、日常に自然を感じられる場所に住みたい」と思つて土地を探していました。日出町は小高い場所に住宅地があつてとても南向きなので、とつても陽当たりがいいんですよ」と感想は上々。

ものに溢れた生活から、自分たちでつくる暮らしへ

都会での生活が長かつたお二人だが、移住してから日頃の暮らしも大きく変わったそう。自宅の庭では小さな家庭菜園をつくり、野菜やハーブを育てているという。近年、友人とともに米作りを始めたそう。自然災害や山からの獣対策をしたりと悪戦苦闘しながらも、食糧を一からつくる大変さを日々実感している。「暮らしに関わることを、できる限り自分で作っていきたくて思っています。自然にあるものを利用したり、あるもので賄えるような便利過ぎない生活を送りたい。少しずつだけど、そんな豊かさで成り立つ暮らしを築いていきたいです」と思いを語つた。

※以上は、大分県への移住者を紹介するウェブマガジン『大分移住手帖』の記事から抜粋したものです。



空き家の紹介・案内、改修費用の補助もご利用できます！

由布市では、市内の空き家の登録、紹介を行い、居住者を探す「空き家バンク制度」を実施しています。また空き家バンク制度を活用してご契約いただいた際に活用できる補助制度、県外から由布市へ移住する際に利用できる補助制度がありますのでお気軽にお問い合わせください。

由布市役所 総合政策課
〒879-5498 大分県由布市庄内町柿原 302 番地
TEL 097-582-1111 (内線1244) E-mail seisaku@city.yufu.lg.jp
農泊施設のご案内 <http://yufuguri.jp/>



移住定住情報

宿泊費補助制度を活用して、ひじ暮らしを体感！

移住定住を目的とする活動を行うために町内の宿泊施設を利用する方を対象とした「ひじ暮らし体験宿泊費補助金」を利用し、日出町を体感してみてください。また、空き家バンク制度、県外からの移住者への補助制度などの支援もありますので、ぜひ日出町にお越しください。

日出町役場 政策推進課
〒879-1592 速見郡日出町2974番地1
TEL 0977-73-3116
E-mail hijigurashi@town.hiji.lg.jp

暮らして実感 日出町はこんなまち

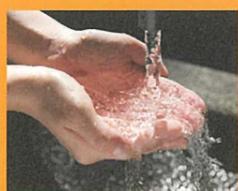
室橋さんから

移住を希望される方へ

大分県内は空き家バンクの登録物件が充実しています。物件について何を重視するかをよく考え、より自分が気に入った物件を見つけてください。

日出町に住んで良かったところ

自然が豊かにもかかわらず、交通アクセスも良いという珍しい場所です。また、町が海に向かって南向きなので、とても陽当たりが良く、過ごしやすいです。



日出は水資源が豊富な町で、上水道の多くが良質な湧き水で賄われているほど

Advice & My Favorite